

平成27年度「若葉区地域活性化支援事業」評価シート

団体名： 加曾利町新和自治会

事業名称： 防犯カメラ設置事業

	評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
1	計画どおり事業が実施できたか	B	・設置した防犯カメラによる監視及び防犯活動等を計画どおり実施した。
			評価の基準
			A：計画を上回って実施できた B：計画どおり実施できた C：計画どおりに実施できなかった
2	事業目的が達成されたか、または、実施した事業の成果が事業目的の達成につながっているか	A	・防犯カメラの運用やのぼり旗の掲出により、地域の安全が維持されている。
			評価の基準（ア事業目的が単年度 イ事業目的が複数年度）
			A：ア 申請時に掲げた目的を達成することができた イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩として十分な内容であった B：ア 一定の成果は上がったが目的の達成まであと一歩だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには課題があるが、改善は可能である C：ア 事業成果は事業目的の達成に不十分だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには不十分であり、事業目的を達成するためには相当の努力が必要である
3	事業の成果は、地域課題の解決や地域の活性化といった制度の目的に寄与するものであったか	A	・地域の安全維持という地域課題の解決に直結している。
			評価の基準
			A：制度の目的に寄与するものであった B：制度の方向性とは一致していたが、寄与度は低かった C：制度の方向性とは一致していなかった

実施した事業の評価

		評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
4	団体の活動に対する評価	事業の実施をきっかけとして、団体の活動を周知するためのPRが積極的に行われたか	B	・活動PRはのぼり旗掲出程度である。
				評価の基準
				A：様々な媒体を活用した積極的なPRが行われた。 B：知り合いを介してPRが行われるなど、小規模な周知が行われた。 C：PRをあまり行わず、外部にアピールする効果は小さかった
5	団体の活動に対する評価	団体の活性化が進んだか。	B	・事業の性質上、外部との交流を図る必要は低いと考える。
				評価の基準
				A：事業の実施をきっかけにして、外部との交流に向けた積極的な動きがあり、具体的な成果（例えば、団体構成員の増加、新たな団体間の連携、他団体に対する事業成果・ノウハウの供与、新規事業への着手、実施など）も見られた。 B：事業の実施をきっかけとして外部との交流を行った、もしくは外部との交流への意欲はあったが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった。 C：外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった。
6	団体の活動に対する評価	団体に、事業もしくは団体としての活動を発展、継続させるための動きがあるか	B	・防犯活動を継続する予定である。
				評価の基準
				A：具体的な計画を立てている。 B：具体的ではないが、継続、発展に向けた計画がある。 C：現在のところ、事業、活動を継続する予定がない。

○上の表に書いた事項のほかに「地域づくり」、「団体の成長」、「市や区との連携」「まちづくり活動の人材育成」という視点で事業を振り返ったときに、特に記載すべき事項